

令和 7 年度 果樹茶業研究会
「落葉果樹研究会」「寒冷地果樹研究会」「果樹病害研究会」「果樹虫害研究会」
開催要領

1. 開催趣旨

落葉果樹・寒冷地果樹及び果樹病害虫に係る試験研究の問題を取り上げ、技術情報の交換、研究課題の整理、研究手法の深化等を図る。また、果樹関係試験研究機関等の研究者相互の連携の強化や試験研究の効率化に資するため、本研究会を開催する。

2. 主催

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫研究部門

3. 参集範囲

【公開】の会議については、農林水産省、国立研究開発法人及び公設の試験研究機関、普及指導機関及び大学等の関係者を対象とする。

【非公開】の会議については、農林水産省の関係者、国立研究開発法人及び公設の試験研究機関の研究者及び主催者が必要と認める者を対象とする。

4. 研究会の開催概要

各研究会の開催日時は以下の通り

会議名	開催日時	開催場所
落葉果樹研究会	令和 8 年 1 月 27 日（火） 9 : 50 ～ 1 月 28 日（水） 10 : 40	つくば市 つくば国際会議場 中ホール
果樹病害研究会	令和 8 年 1 月 27 日（火） 10 : 00 ～ 1 月 28 日（水） 12 : 00	つくば市 つくば国際会議場 大会議室101
果樹虫害研究会	令和 8 年 1 月 27 日（火） 10 : 00 ～ 1 月 28 日（水） 12 : 00	つくば市 つくば国際会議場 大会議室102
寒冷地果樹研究会	令和 8 年 1 月 30 日（金） 9 : 00～12 : 00	盛岡市 いわて県民情報交流センター(アイーナ)

5. 参加申込方法

別紙 1 の「令和 7 年度果樹茶業研究会・出席申込書」に、必要事項を場所ごとにとりまとめ、農研機構果樹茶業研究部門研究推進部研究推進室宛に令和 7 年 12 月 15 日（月）までに申し込んで下さい。

注）並行して開催される「果樹・茶系統適応性検定試験成績検討会（落葉果樹）」に出席の方もこの申込書をご利用いただいて結構です。

6. 問合せ先

○出席申し込み・果樹茶業研究会全般に関する問い合わせ

農研機構果樹茶業研究部門研究推進部研究推進室

E-mail : sh-NIFTS_kenkyukai@naro.go.jp 電話 : 029-838-6452

○落葉果樹研究会に関する問い合わせ

農研機構果樹茶業研究部門果樹生産研究領域 児下 佳子

E-mail : koshita.yoshiko450@naro.go.jp 電話 : 029-838-6461

○果樹病害研究会に関する問い合わせ

農研機構植物防疫研究部門果樹茶病虫害防除研究領域 須崎 浩一

E-mail : suzaki.koichi943@naro.go.jp 電話 : 019-645-6156

○果樹虫害研究会に関する問い合わせ

農研機構植物防疫研究部門果樹茶病虫害防除研究領域 井上 広光

E-mail : inoue.hiromitsu603@naro.go.jp 電話 : 0846-45-4762

○寒冷地果樹研究会に関する問い合わせ

農研機構果樹茶業研究部門果樹品種育成研究領域 岩波 宏

E-mail : iwanami.hiroshi762@naro.go.jp 電話 : 019-645-6155

7. その他

- 落葉果樹研究会、寒冷地果樹研究会については、資料は当日会場にて配布いたします。
- 果樹病害研究会、果樹虫害研究会の要旨は、ホームページより事前にダウンロードして会場へご持参ください。パスワード等につきましては参加登録者にお知らせします。
- 令和8年1月27日～28日に開催される「落葉果樹研究会」「果樹病害研究会」「果樹虫害研究会」につきましては、「果樹・茶系統適応性検定試験成績検討会（落葉果樹）」との合同交流会を1日目（27日）夕方に開催いたします。出席希望者は、出席申込書（別紙1）を利用してお申し込みをお願いいたします。

出席申込書（別紙1）は以下のURLからダウンロード可能です。

URL : <http://www.naro.affrc.go.jp/nifts/contents/kaigi/index.html>

全体会議

「気候変動が果樹生産に及ぼす影響と適応策」

令和8年1月27日（火） 9：50～12：20

【趣旨】

IPCC報告にもすでにあるように、地球温暖化は気温の上昇や降雨の極端化等により、農業生産に地球規模で多大な影響を及ぼし始めている。わが国においても、2023年からの3カ年は記録的な猛暑となり、とりわけ2025年夏は梅雨明けの早期化も加わり、高温と少雨（渇水）の両方が農業生産に大きな打撃を与えた。温暖化の進行を抑えるための緩和策が喫緊の課題である一方、進行する気候変動への適応技術の開発と普及も急務となっている。

永年作物の果樹は農作物のなかでも温暖化の影響を受けやすく、夏季の高温は果実の着色不良や日焼けの発生をもたらす一方、春先の高温は開花の早期化による晩霜害リスクを、秋冬季の高温は樹の耐凍性獲得の阻害による凍害発生リスクをそれぞれ増大させている。また病原菌や害虫の生活環が変化し、病害虫被害が拡大する事例も出現している。将来にわたって安定して果樹生産を行うためには、短期的な対策だけでなく、長期的な視野に立った果樹経営策の構築も必要となる。

そこで本研究会では、果樹生産に対する温暖化の影響について概観するとともに、長期的展望に立った安定生産への取組事例について検討する。

【あいさつ】 農研機構果樹茶業研究部門所長 草場 新之助

【話題提供】

1) 果樹の温暖化対策と予測技術の活用

農研機構果樹茶業研究部門 杉浦 俊彦

2) 薬剤耐性菌に対応したリンゴ黒星病の持続的防除技術の確立（仮）

青森県産業技術センター農林総合研究所 赤平 知也

3) ブドウ「巨峰」における高温障害の発生条件の解明と対策

愛知県農業総合試験場 東 大介

4) 鹿児島県における亜熱帯果樹の導入

鹿児島県農業開発総合センター 木崎 賢哉

5) 岩手県におけるモモの導入について

岩手県農業研究センター 川守田 真紀

6) 総合討論

落葉果樹研究会

令和8年1月27日（火）13:40 ～ 1月28日（水）10:40

【趣旨】

落葉果樹の栽培分野に関連して、樹種・分野別にナシ、モモ、ブドウ、カキ、流通利用の5つのセッションを設け、最近のトピックス等の話題を提供し、情報共有と論議を進めることで、落葉果樹栽培分野における研究開発の一層の推進を図る。

【話題提供】

① モモ

令和8年1月27日（火）13:40～14:20

- 1) モモ「さくひめ」のトンネルハウス栽培による早期出荷と高品質果実生産技術
熊本県農業研究センター果樹研究所 古田 和秀
- 2) 音響振動法による収穫適期予測技術の開発（仮）
岡山県農林水産総合センター 樋野 友之

② 流通利用

令和8年1月27日（火）14:20～15:00

- 1) 近赤外光照射がモモ「清水白桃」の果実品質およびホモブシス腐敗病に及ぼす影響（仮）
株式会社四国総合研究所：秦 亜矢子
- 2) 茨城県産クリの長期品質保持技術・加工技術の開発（仮）
茨城県農業総合センター 森田 名那子

-----休憩 20分-----

③ ナシ

令和8年1月27日（火）15:20～16:20

- 1) 近年の気候下におけるナシ「甘太」の果実品質および収穫始期予測技術
茨城県農業総合センター園芸研究所 比屋根 雅子
- 2) 「王秋」および「甘太」のジョイントV字トレリス樹形による早期成園化（仮）
福島県農業総合センター 佐藤 寛人
- 3) 新梢緑枝接ぎによる二ホンナシ苗木の育成技術
千葉県農林総合研究センター 押田 正義

④ ブドウ

令和8年1月28日（火）9:00～10:00

- 1) ブドウの果実品質と気象要因との関係（仮）
山梨県果樹試験場 塩谷 諭史
- 2) 「シャインマスカット」の早期ジベレリン処理による省力化（仮）

愛知県農業総合試験場 東 大介

- 3) ブドウ'長果G11'の成熟期の除袋及び反射シート設置が果実品質に及ぼす影響
長野県果樹試験場 田邊 友樹

⑤ カキ

令和8年1月28日（水）10:00～10:40

- 1) カキV字ジョイント栽培の品種適応性と今後の展開方向（仮）
福岡県農林業総合試験場 松本 理央
2. 市田柿における摘らいまたは摘花の実施が果実品質および樹体生育へ及ぼす影響
長野県南信農業試験場 佐藤 政明

果樹病害研究会

「果樹病害防除におけるドローン利用の現状と展望」

【趣 旨】

農業の担い手不足、作業負担の軽減、効率的な防除を目指してドローン防除は稲作、畑作で普及しつつある。果樹ではこれまで病害虫防除にはスピードスプレーヤーが多用されてきたが、防除作業の省力化や農薬散布量の低減を図るため、国内果樹産地の試験研究機関等においてドローン利用が検討されている。現在は産地ごとの取り組みが中心であり研究機関ごとに手探りの状況で検討を進めているところである。そこで本研究会では果樹病害防除におけるより効果的なドローン利用技術の開発に向けて、各地でのドローン防除についての取り組みや関連した成果について情報共有を行うこととする。

【開催日時】

令和8年1月27日（火）10:00 ～ 1月28日（水）12:00

【開催場所】

つくば国際会議場（エポカル） 大会議室101

【研究会内容】

1）（重点検討、非公開）果樹病害防除におけるドローン利用の現状と展望

「果樹病虫害防除におけるドローンの活用に関する技術開発」

塩谷 浩（農研機構果茶研）

「散布水量の考え方について－果樹病虫害防除に関して－」

富田 恭範（（一社）日本植物防疫協会）

「ドローン散布用農薬開発の現状・課題と今後の展望」

根津 修（丸和バイオケミカル（株））

「静岡県におけるカンキツ病虫害ドローン防除の現状と問題点」

石田 朱里（静岡農林技研果樹研）

「和歌山県におけるウンシュウミカンのドローン防除について」

水上 徹（和歌山果樹試）

「奈良県のカキにおけるドローン防除の検討」

米田 健一（奈良農開セ果樹・薬草）

「香川県におけるドローン散布によるカンキツ病害虫の防除体系の検討」

生咲 巖（香川農試府中果樹研）

「愛媛県におけるカンキツのドローン防除についての取り組み」

青野 光男（愛媛農林水産研果樹研）

「長崎県の果樹病害虫に対するドローン防除の取り組み」

内川 敬介（長崎農開セ果樹・茶）

2)（自由発表、公開）各県等における研究成果

【開催方法および演題の提出について】

- 1) 果樹病害研究会は対面のみで開催します。オンライン併用はございません。
- 2) 研究会は重点検討、自由発表の二部構成で行います。重点検討については「非公開」、自由発表は「公開」です。知財等を取得予定の場合には、ご注意ください。
- 3) 発表は学会に準じた形式で行います。質疑応答を含めて 1 講演あたり重点検討が 30 分、自由発表は 15 分程度を予定しています。申し込みが多数の場合には、演題数や講演時間を調整させていただきますので予めご了承ください。
- 4) 自由発表は研究成果のほか、各研究機関で重点的に取り組んでいること、近年発生が問題となり防除に苦慮している病害、他県と情報・意見交換をしたい事項など内容に制限は設けません。多数の応募を歓迎します。
- 5) 重点検討、自由発表ともに講演要旨の様式は「別紙 病 1」とします。自由発表にて研究成果の発表を希望される場合は要旨とともに必要事項もご記入ください。
- 6) 講演要旨は農研機構植物防疫研究部門果樹茶病害虫防除研究領域 須崎浩一（suzaki.koichi943@naro.go.jp）宛の電子メールでご提出ください。締切は重点検討、自由発表いずれも令和 8 年 1 月 9 日（金曜日）とします。
- 7) 講演用の パワーポイントファイルは重点検討、自由発表ともに令和 8 年 1 月 21 日（水曜日）までにご提出ください。提出方法についてはご発表予定の皆様は別途ご連絡します。

※ 別紙 病 1「果樹病害研究会講演要旨様式および自由発表申込書」は以下の URL からダウンロード可能です。

URL : <http://www.naro.affrc.go.jp/nifts/contents/kaigi/index.html>

果樹虫害研究会

「難防除害虫カイガラムシ類のフェロモンを活用した防除技術」

【趣旨】

カイガラムシ類は果樹の重要害虫の一つであり、化学農薬のみでの防除が困難な「難防除害虫」として知られている。また近年の農薬取締法の改正により従来慣行的に用いられてきた薬剤の登録失効が相次いでおり、生産現場では代替剤・新規剤の開発が強く求められている。しかし、農林水産省が推進する「みどりの食料システム戦略」では、化学農薬使用量（リスク換算）の削減が重要な目標として掲げられている。このような背景のもと、カイガラムシ類に対してフェロモンを活用した環境負荷の低い防除技術の開発が進められており、特に果樹全般の害虫であるフジコナカイガラムシに対する交信かく乱剤の農薬登録作業が令和7年4月より農水省で開始された。令和7年度は、カイガラムシ類に対する交信かく乱剤の実用化に向けた重要な節目の年となることから、今年度の果樹虫害研究会では「難防除害虫カイガラムシ類のフェロモンを活用した防除技術」を重点検討テーマとして取り上げる。本研究会では、フジコナカイガラムシ交信かく乱剤の開発経緯や福岡県における普及展望、クワコナカイガラムシ、マツモトコナカイガラムシなど他種への応用事例や種ごとの生態的特性、性フェロモンの構造的多様性と交信かく乱の作用機序、さらにはフェロモンを天敵誘引物質として活用した生物的防除の可能性などについて、関係各機関・企業から最新の研究成果と知見を提供してもらい、果樹のカイガラムシ対策の方向性と展望について議論を深める。

【開催日時】

令和8年1月27日（火） 10:00 ～ 1月28日（水） 12:00

【開催場所】

つくば国際会議場（エポカル） 大会議室 102

【話題提供】

1. 重点検討テーマ「難防除害虫カイガラムシ類のフェロモンを活用した防除技術」

1) 「フェロモンを利用したカイガラムシ防除の実用化例」

信越化学合成技術研究所 渡辺 武・轡田康彦・内藤尚之・三宅裕樹・金生 剛

2) 「フジコナカイガラムシ交信攪乱剤開発の道のり」

福岡県農林業総合試験場 手柴真弓

3) 「福岡県におけるフジコナカイガラムシ交信攪乱剤の活用と今後の普及展望」

福岡県農林業総合試験場 清水信孝

4) 「フジコナフェロモンへの誘殺時刻と休眠などの生態的知見とクワコナ、マツモトコナの交信かく乱試験の結果」

島根県農業技術センター 澤村信生

5) 「カイガラムシ類のフェロモンの多様性と化学生態」

農研機構植物防疫研究部門 田端 純

6) 「フェロモンを天敵誘引物質として活用する保全的生物的防除」

農研機構植物防疫研究部門 菅原有真

2. 特別講演

1) 「山梨県で問題となる果樹の重要害虫」

山梨県果樹試験場 村上芳照

2) 「大阪府における果樹害虫の調査研究事例」

大阪府立環境農林水産総合研究所 柴尾 学

3. 各県等における最近の課題

令和7年度の果樹害虫発生動向、防除技術、防除に関する問題点などに関わる発表課題を広く募集する。

【開催方法について】

対面のみで実施されます。オンライン併用のハイブリッド開催ではありません。

【発表課題の募集について】

- 1) 発表は学会に準じた形式で行い、質疑応答を含めて、1課題あたり15分～20分程度を予定しています。
申し込み者多数の場合には、発表課題数や発表時間を調整させていただきます。
- 2) 内容は特に指定しません。各研究機関で重点的に取り組んでいること、新規に発生が認められた害虫、最近増加してきた害虫、防除等での対応に苦慮している害虫、新しい防除技術等々、果樹害虫全般について
情報交換・意見交換をしたいことであれば何でも結構です。お気軽にお申込み下さい。
- 3) 発表を希望される方は、【別紙 虫1】の「虫害「情報交換」課題発表申込書」に必要事項をご記入のうえ、Eメールで農研機構植物防疫研究部門 果樹茶病虫害防除研究領域 井上広光
(inoue.hiromitsu603@naro.go.jp) までお送り下さい。資料の提出期限は令和7年12月22日
(月) です。

※果樹虫害研究会は【公開】の会議です。ご発表により内容が開示された扱いとなりますので、特許等の知財を取得予定の場合には、あらかじめその旨ご承知下さい。

※別紙1の課題発表申込書は以下のURLからダウンロードして利用可能です。

URL : <http://www.naro.affrc.go.jp/nifts/contents/kaigi/index.html>

(果樹虫害研究会問合せ先)

〒739-2494 広島県東広島市安芸津町三津字栗岡10301-2

農研機構植物防疫研究部門 果樹茶病虫害防除研究領域 井上広光

E-mail: inoue.hiromitsu603@naro.go.jp TEL: 0846-45-4762

寒冷地果樹研究会

「近年の寒冷地果樹関連の成果と課題」

令和8年1月30日（金）9：00～12：00

【趣旨】

寒冷地果樹産地における課題の現状やこれまでの技術開発の取り組みを踏まえ、持続的な発展を可能にする技術体系確立に向けて、情報共有と論議を進めることでより一層の連携と研究推進を図る。

【話題提供】

1. 北海道における近年の成果と課題
2. 青森県における近年の成果と課題
3. 岩手県における近年の成果と課題
4. 宮城県における近年の成果と課題
5. 秋田県における近年の成果と課題
6. 山形県における近年の成果と課題
7. 福島県における近年の成果と課題
8. 群馬県における近年の成果と課題
9. 長野県における近年の成果と課題
10. 富山県における近年の成果と課題
11. 農研機構果樹茶業研究部門における最近の成果と課題

【発表方法】

- 1) 発表は学会に準じた形式で行い、質疑応答を含めて、1 課題あたり20分程度を予定しています。
- 2) 発表要旨の作成をお願いします。発表要旨は、当日に会場で配布します。発表要旨の様式および提出期限は、事務局より別途お知らせします。

（事務局）

農研機構果樹茶業研究部門 果樹生産研究領域 岩波 宏

Tel: 019-645-6155

E-mail: iwanami.hiroshi762@naro.go.jp